

共通事項

材 料

◇ コンクリート

・コンクリートの種類      コンクリートは、レディーミクストコンクリートとする。

・構造体コンクリート強度

- 普通コンクリート       $F_c = 21 \text{ N/mm}^2$  (基礎・地中梁・地上躯体)
- 普通コンクリート       $F_c = \text{ } \text{N/mm}^2$  (基礎・地中梁・地上躯体)
- 普通コンクリート       $F_c = \text{ } \text{N/mm}^2$  防水剤 (ベストン・NN同等品) [      ]
- 普通コンクリート       $F_c = \text{ } \text{N/mm}^2$
- 土間コンクリート       $F_c = 21 \text{ N/mm}^2$  [柱・壁部分については、躯体強度とする。]
- その他のコンクリート       $F_c = 18 \text{ N/mm}^2$  (捨てコンクリート・防水押さえ用・嵩上げ用) [割増し ( $\Delta F$ )  $3 \text{ N/mm}^2$  は無し]
- 外構コンクリート       $F_c = 21 \text{ N/mm}^2$  [割増し ( $\Delta F$ )  $3 \text{ N/mm}^2$  は無し]

※構造体コンクリートの強度については、公共建築工事標準仕様書 (平成28年版) によること。

・コンクリートの品質

- (1) スランプ      ・基礎地中梁、スラブは $< \text{O}12\text{cm} \text{ } \bullet 15\text{cm} \text{ } \text{O}18\text{cm} >$ とする。  
・柱、壁は $< \text{O}12\text{cm} \text{ } \text{O}15\text{cm} \text{ } \bullet 18\text{cm} >$ とする。  
・捨て、防水押さえ用、嵩上げ用、外構コンクリートは $< \text{O}12\text{cm} \text{ } \bullet 15\text{cm} \text{ } \text{O}18\text{cm} >$ とする。
- (2) 単位水量      ・単位水量は  $185 \text{ kg/m}^3$  以下とする (捨てコン以外)。
- (3) 水セメント比      ・水セメント比は、60%以下とする (捨てコン以外)。
- (4) 塩化物総量      ・コンクリート中に含まれる塩化物総量は、 $0.3 \text{ kg/m}^3$ 以下とする。
- (5) 空気量      ・空気量は、 $4.5\% \pm 1.5$ 内とする (捨てコン以外)。
- (6) 混和剤      ・AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤の使用量は、所定の品質が得られるよう決定の事。  
※暑中コンクリートの適用を受ける期間の混和剤は、AE減水剤遅延形又は高性能AE減水剤遅延形を使用する。
- (7) 強度試験      ・圧縮強度試験 (28日) は、公的機関にて行う。

◇ 鉄 筋

・材 種

- SD295A (D10～D16:規格品)  $f_t = 196 \text{ N/mm}^2$  (長期)
- SD345 (D19～      :規格品)  $f_t = 215 \text{ N/mm}^2$  (長期)
- SD390 (D29～      :規格品)  $f_t = 215 \text{ N/mm}^2$  (長期)
- D19以上はガス圧継手または機械式継手とする。その他は重ね継手とする。(部位によってはA級ガス圧継手)
- 全て重ね継手とする。

・ガス圧継手

ガス圧継手部及び機械式継手部の検査

機械式継手

- 外観検査      圧接作業完了時全数について行うこと。
  - 超音波探傷検査 (ガス圧継手の場合)      1検査ロットに30箇所以上。全てが合格であること。  
(第三者検査機関にて行い、検査機関については、監理者の承諾を受け、元請け施工者が直接契約すること。)
  - 引張試験 (機械式継手の場合)      1検査ロットに3箇所以上。全てが合格であること。(公的機関で行うこと)
- ※1検査ロットは、1組の作業班が1日に施工した継手箇所で鋼種、鉄筋呼び名、部位ごとに200箇所程度とする。

基 礎

・基礎種別      ● 直接基礎      許容鉛直支持力 =  $50 \text{ kN/m}^2$  (長期)

その他

- ・特記無き限り国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」(平成28年版)に依る。
- ・構造設計図に示す事項の他は 各建築工事標準仕様書 及び 日本建築学会の各構造関係図書 及び 公共住宅標準詳細設計図集 に依る。

(株)トニョウケイ・(株)東条設計・(株)ワイ・ユウプラン 設計共同企業体		鹿児島市交通局鹿児島駅前管地上屋ほか増設工事		
管 理 建築士	一級建築士 第231912号 折 田 孝 一 印	信号所		S-18
		共通事項	鹿児島市交通局電車事業課	



調 査 名 鹿兒島県庁庫留地整頓事業に伴う軌道工事ほか基本・実施設計業務委託

事業・工事名 阪早線駅前停留場整備事業に伴う軌道工事ほか基本・実施設計業務委託

ボーリングNo							
---------	--	--	--	--	--	--	--

設計GL

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図-1

1. 一般事項

(1) 構造図に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。  
本設計図に記載無き場合は、建築工事共通仕様書（最新版）による。

(2) 記号

d — 異形棒鋼の呼び名に用いた数値 D — 部材の成 R — 直径 @ — 間隔  
r — 半径 l o — 部材間の内法距離 h o — 部材間の内法高さ  
φ — 直径 または丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折り曲げの形状

折り曲げ角度	180°	135°	90°	備考
図				スラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形及びL形梁のキャブタイにのみ用いる キャブタイ 8d以上
鉄筋の余長	4d以上	6d以上	8d以上 * (4d以上)	
折り曲げ内法寸法 (R) はSR235は3d以上SD295、SD345は4d以上 * 片持スラブ上端筋の先端の余長は4d以上で良い				

(2) 鉄筋中間部の折り曲げの形状 鉄筋の折り曲げ角度90°以下

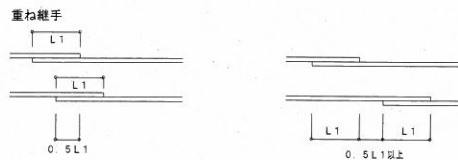
図	使用箇所	鉄筋の種類	鉄筋径	折り曲げ内法直径 R
	フープ	SR235	D16以下	3d以上
	スターラップ	SD295	D19以上	4d以上
	スパイラル筋	SD345		
	上記以外の鉄筋	SR235	D16以下	4d以上
		SD295	D19~D25	6d以上
		SD345	D29以上	8d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継ぎ手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	重ね継ぎ手の長さ (L1)	定着の長さ	
			一般 (L2)	下端筋 (L3)
SD295	18以下	45dまたは35dフック付き	40dまたは30dフック付き	
SD345	21・22・5・24	40dまたは30dフック付き	35dまたは25dフック付き	25dまたは15dフック付き
	27以上	35dまたは25dフック付き	30dまたは20dフック付き	10dかつ150mm以上

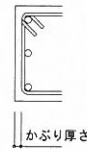
継手

- 末端のフックは、定着及び継ぎ手の長さには含まれない
- 継ぎ手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる材の継ぎ手は、細い方の材の継ぎ手長さとする
- 直径が28mm以上の場合は、重ね継ぎ手としてはならない
- 鉄筋径の差が5mmを超える場合は、圧接としてはならない



(4) 鉄筋の最小かぶり厚さ

部位	かぶり厚さ	仕上げあり	仕上げなし
スラブ、耐力壁以外の壁	20	30	
土に接しない部分	耐力壁	30	30
	耐力壁	30	40
土に接する部分	換気、耐圧スラブ	40	
	柱・梁・床スラブ・耐力壁	40*	
煙突等高温を受ける部分	基礎・換気・耐圧スラブ	60*	
		60	



(1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、係員の承認を受けて30mmとすることができる

(5) 鉄筋のあき

異形鉄筋 1.5d以上 (鉄筋間隔 2.7d以上) かつ  
粗骨材の最大寸法の 1.25d以上かつ25以上

(6) 鉄筋のフック

- スターラップ及びフープ及び幅止め筋
- 梁 (地中梁を除く) の出隅部分の鉄筋
- 単純梁の下端筋
- 重ね継手及び、最上階の柱頭の柱の四隅にある主筋

3. 杭

既製杭の杭頭補強

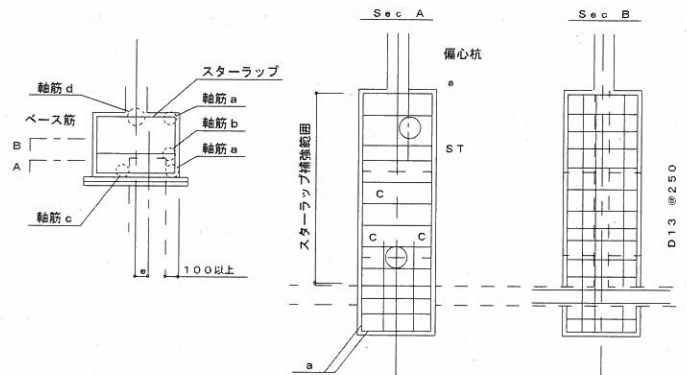
所定位置より低く止まった場合	
H ≤ D 以下の場合 H > D の場合は打ち合わせに依る	
杭 径	350φ 400φ 450φ 500φ 600φ
補 強 筋	6-D13 8-D13 8-D16 8-D16 10-D16
HOOP筋	D10-@150

4. 杭偏心時の補強リスト

偏心距離 e の許容範囲は75以下とする。75を超える場合は、監督員の指示により下図による。

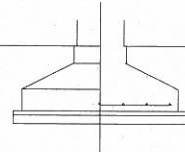
偏心 距離	75 < e ≤ 125	125 < e ≤ 175	175 < e ≤ 200
軸 筋	a, b, c, d 1-D13 2-D10 1-D16 1-D16 2-D13	a, b, c, d 1-D16 1-D16 2-D13 1-D16 2-D13	a, b, c, d 1-D16 1-D16 2-D13 1-D16 2-D13
スターラップ	D10 - @250	D10 - @150	D13 - @250

- 注1. e > 200の場合は監督員と協議する。  
注2. 杭偏心が、地中梁内軸線上で生じた場合は、補強の必要はない。



5. 基礎

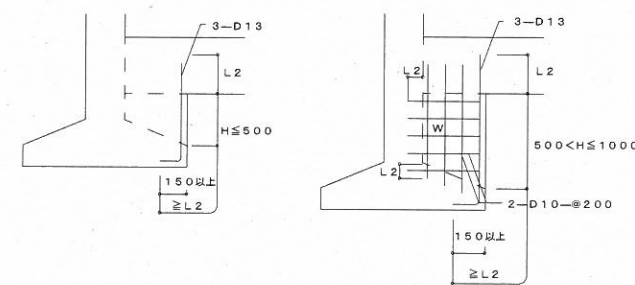
(1) 直接基礎



(2) 杭基礎

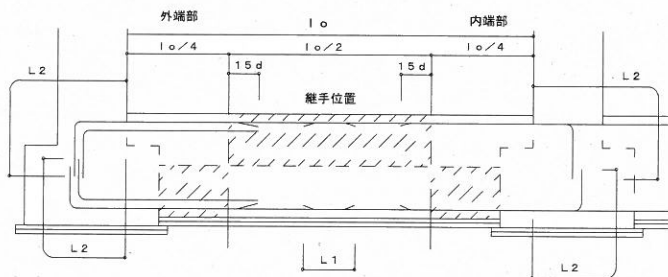


(3) 基礎接合部の補強

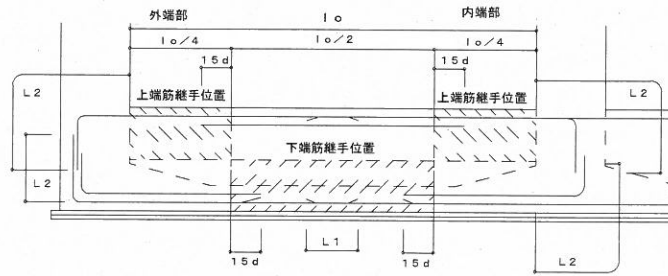


6. 地中梁

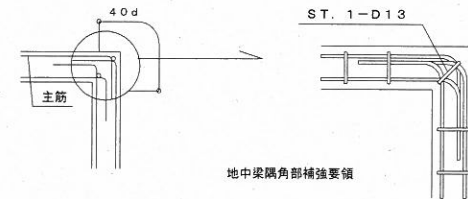
(1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



(2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)

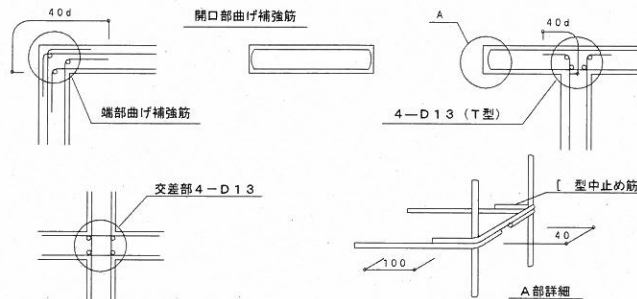


7. 地中梁の配筋要領

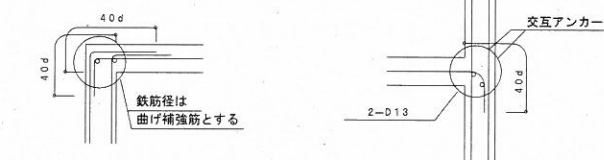


8. 壁の配筋要領

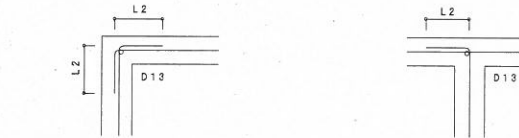
ダブルとダブル



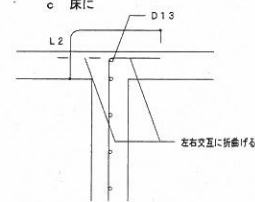
ダブルとシングル



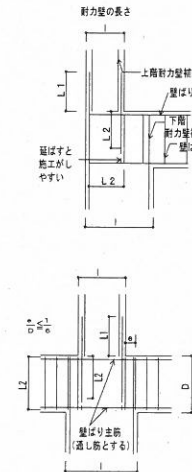
シングル



壁とスラブの定着要領



上・下階耐力壁の各種配置

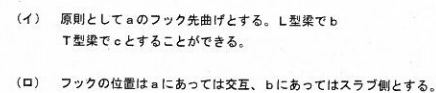
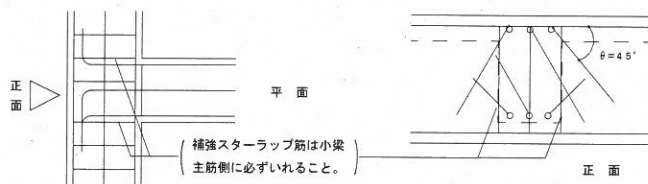






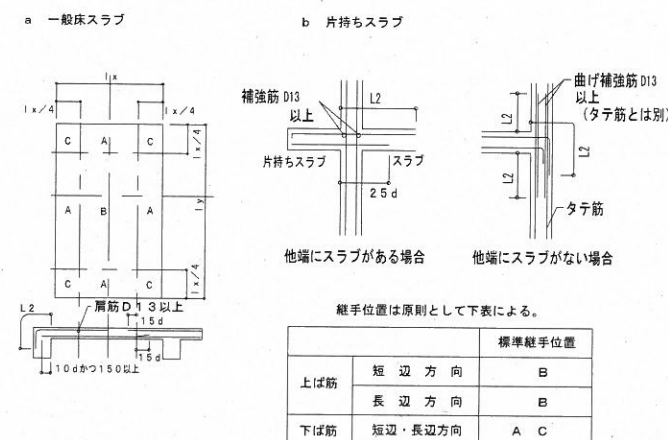
2012.07.31修正

注1. 壁梁主筋の継手は重ね継手とし、壁内で行う事。  
 注2. 壁梁腹筋はD10とする。幅止め筋はD10—@1000mm以下とする。  
 注3. 壁の幅止め筋はD10—@1000mm以下とする。

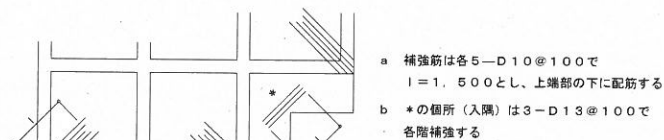


## 10. 床板

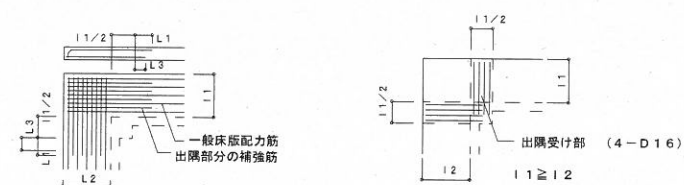
(1) 定着および継手



## (2) 屋根スラブの補強



(3) 片持ちスラブ出隅部補強

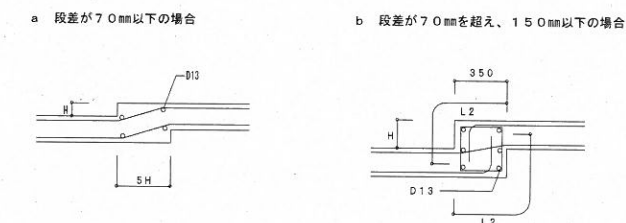


(4) 床板開口部の補強 (開口の径500以上の場合)

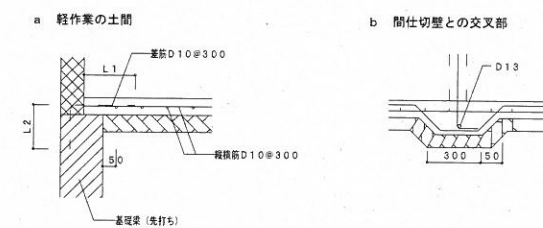


注) 設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

### (5) 床板段差

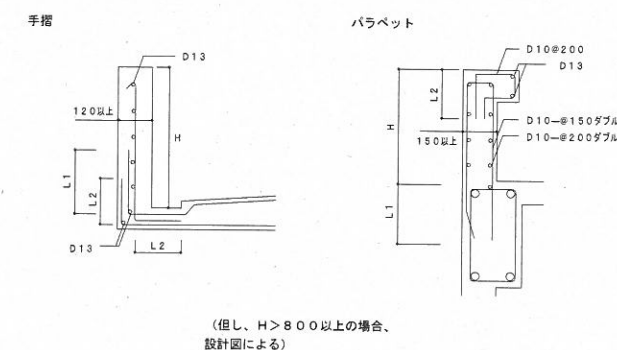


#### (6) 土間コンクリート

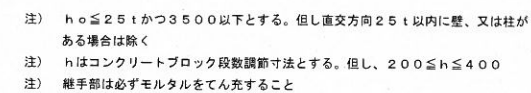


## 11. その他

手摺、パラペット



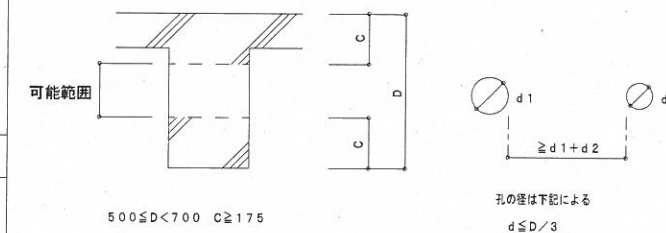
コンクリートブロック帳壁



12. 梁貫通孔補強 100 $\phi$ のスリーブ補強は既製品を使用する事。

(1) 設置可能範圍

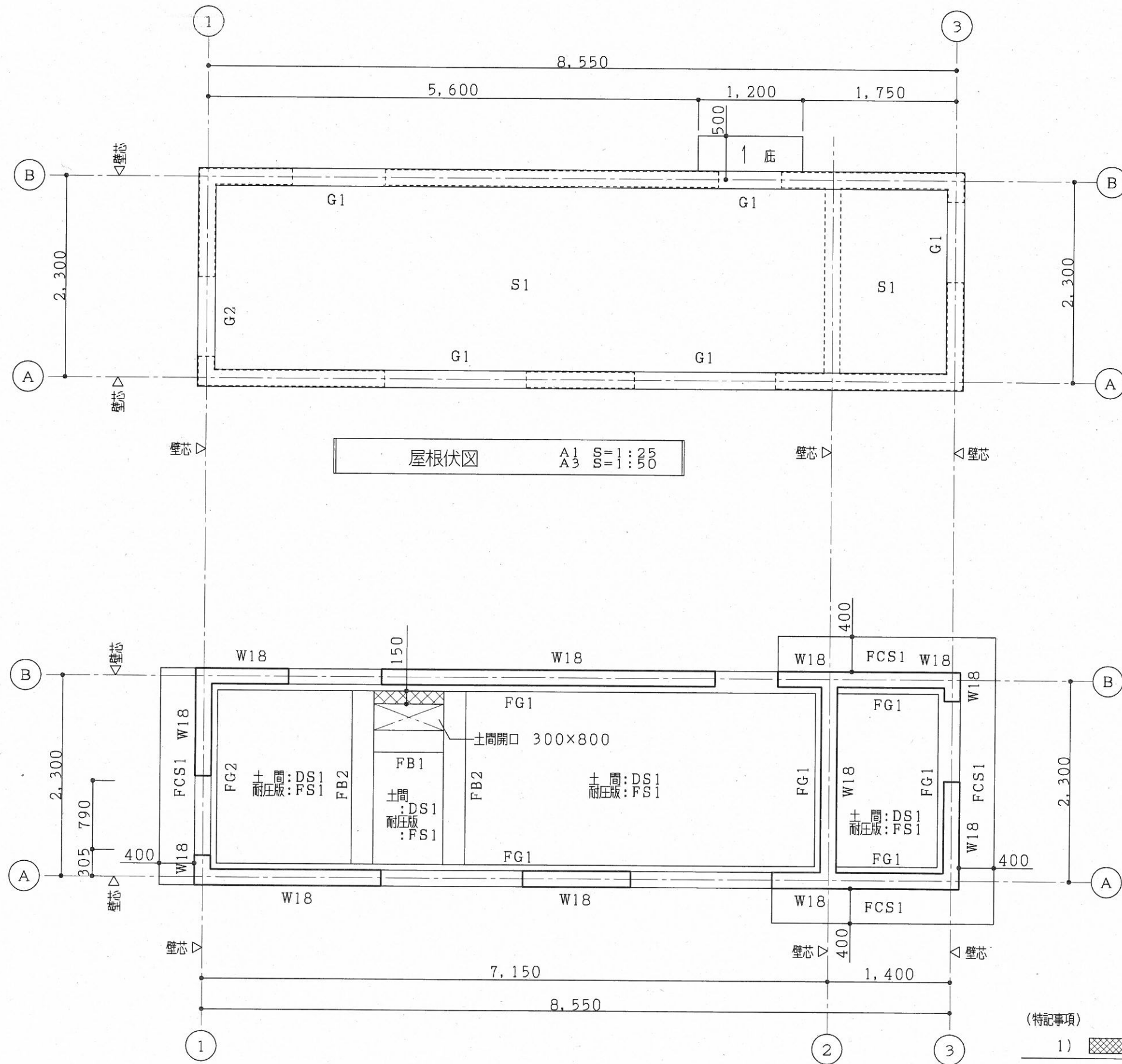
孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁（小梁を含む）の面から原則として  $1/2D$  ( $D$ は貫通孔を設ける梁の成) 以上 離すこと。


$$\begin{aligned} 500 \leq D < 700 \quad C \geq 175 \\ 700 \leq D < 900 \quad C \geq 200 \\ 900 \leq D \quad \dots \quad C \geq 250 \end{aligned}$$

(2) 既製形

※既製品補強材には、建設技術評価規定に基づいて 評価を  
うけたもの、または（財）日本建築センターの評定・評価を  
受けたものを用いる。





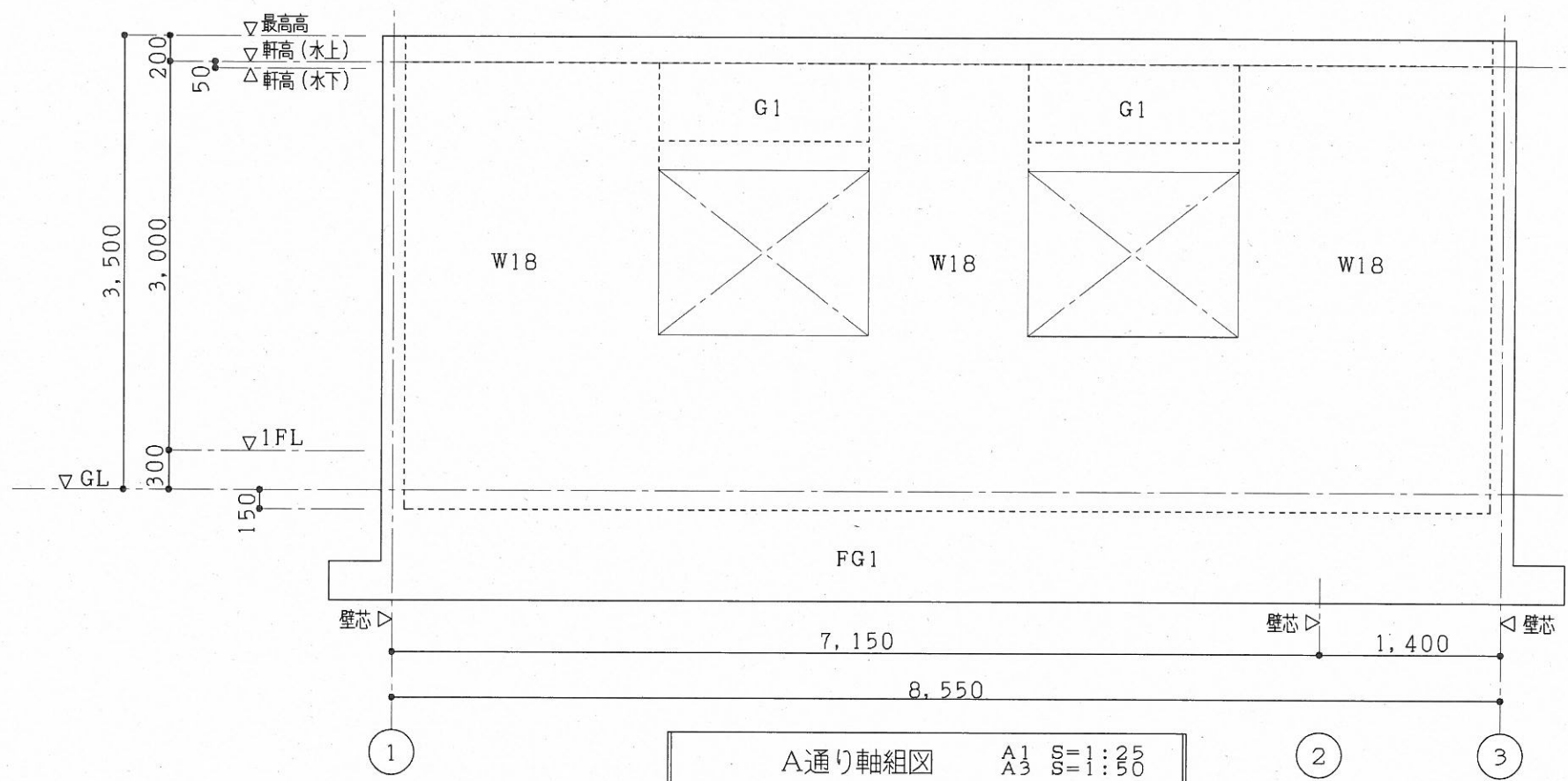
屋根伏図 A1 S=1:25  
A3 S=1:50

基礎伏図 A1 S=1:25  
A3 S=1:50

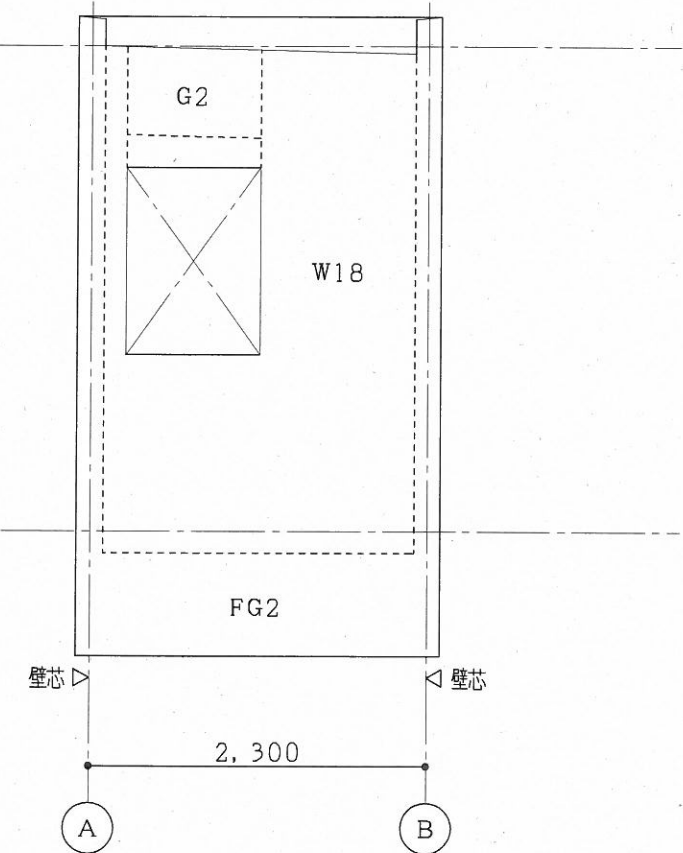
(特記事項)

1) は、増し打ちを示す。(増打部は全て補強筋を施工の事<梁・柱・基礎>)

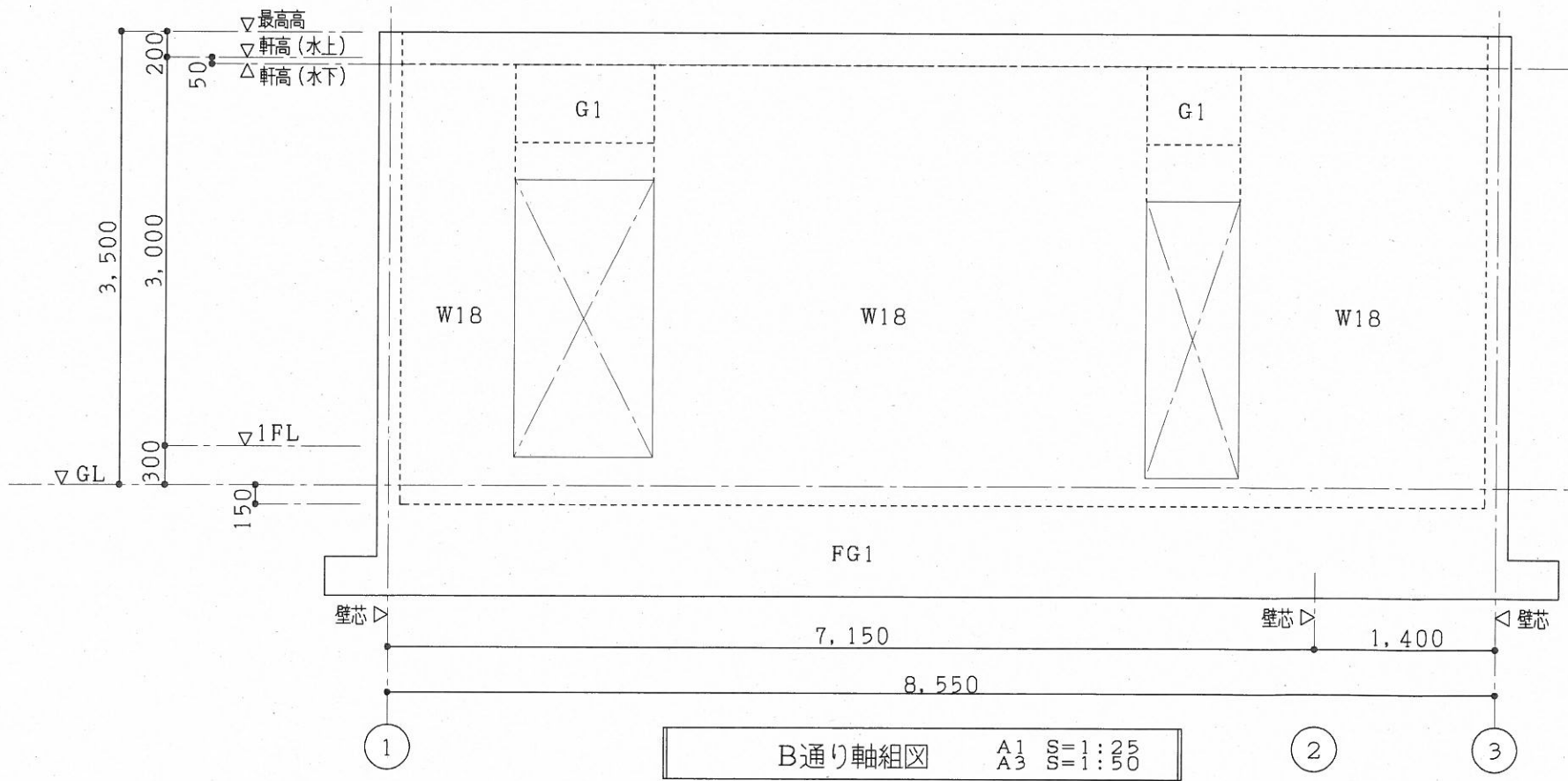
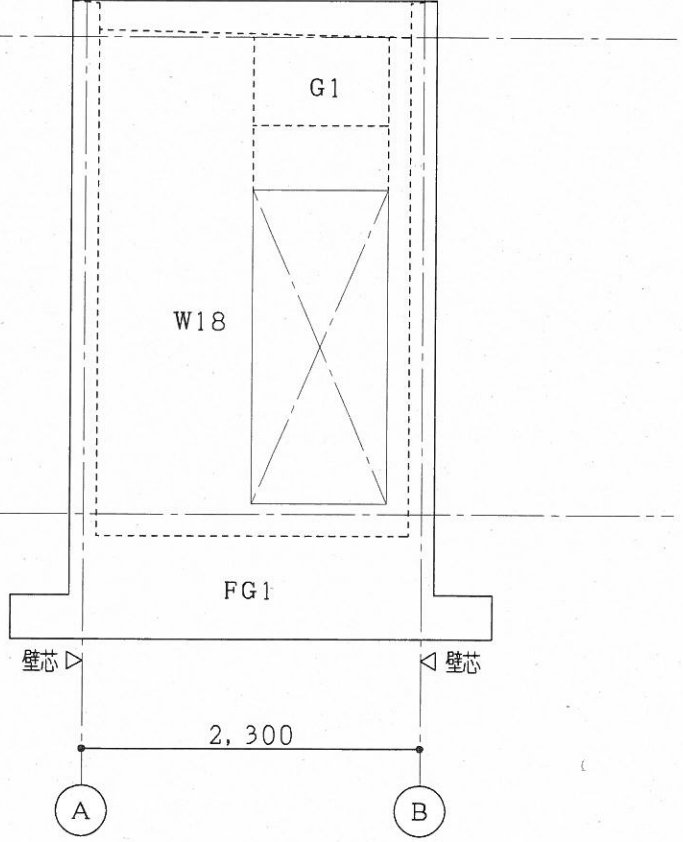
(株)ニワガタ・(株)東条設計・(株)ワイ・ユウプラン 設計共同企業体		鹿児島市交通局鹿児島駅前停留場上屋はか率築工事	
管 理 建築士		信号所 基礎伏図・屋根伏図	A1 1: 25 A3 1: 50
一級建築士 第231912号 折 田 孝 一 印		鹿児島市交通局電車事業課	
			S-22



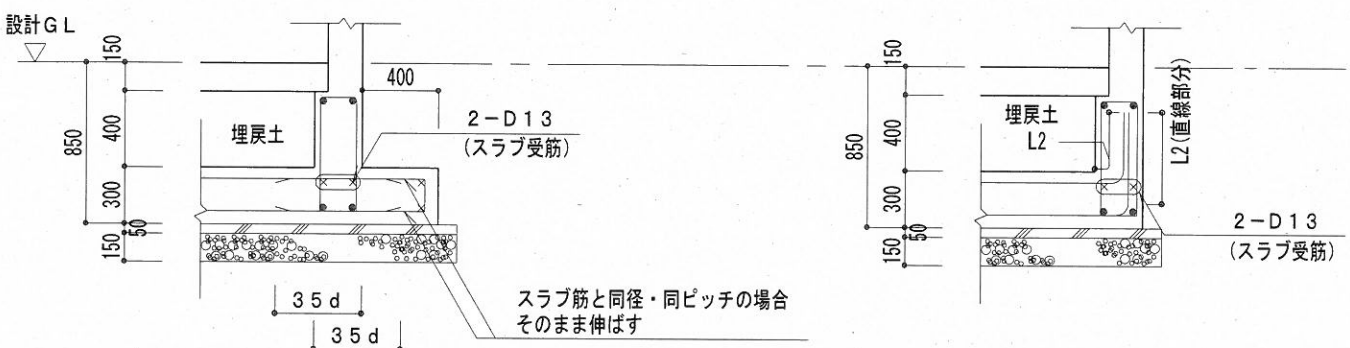
1通り軸組図 A1 S=1:25  
A3 S=1:50



3通り軸組図 A1 S=1:25  
A3 S=1:50



耐圧版配筋要領図及び耐圧版リスト



耐圧版配筋要領図

スラブリスト

符 号	版 厚	位 置	短 辺 方 向		長 辺 方 向		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
FS1 FCS1	300	上 端 筋	D13	— @200	D13	— @200	ダブルモチアミ
		下 端 筋	D13	— @200	D13	— @200	
DS1 (1階床)	150						
S1	180	上 端 筋	D10・D13	— @200	D10・D13	— @200	ダブルモチアミ
		下 端 筋	D10	— @200	D10	— @200	

地中梁リスト A1 S=1:20  
A3 S=1:40

- (特記事項)
- 梁二段筋のあきは1.5d (d:鉄筋径)とする
  - 幅止め筋D10@1,000以下とする
  - 主筋の定着長さは、40d以上とする。

符 号	FG1 FB1	FG2 FB2
位 置	全 断 面	全 断 面
断 面		
寸 法	250 x 700	250 x 700
上端筋	2-D16	3-D16
下端筋	2-D16	3-D16
スターラップ	□-D10-@150	□-D10-@150
腹 筋	2-D10	2-D10



大梁リスト

A1 S=1:20  
A3 S=1:40

(共通事項)

- 1) 外部打放し部は厚20増しコンクリート打ちとする
- 2) 外部タイル貼部は厚10増しコンクリート打ちとする
- 3) 梁二段筋のあきは1.5d (d:鉄筋径)とする
- 4) 幅止め筋はD10@1,000以下とする
- 5) 大梁主筋の定着長さは、40d以上とする。

符 号	G1	G2
位 置	全断面	全断面
断 面		
寸 法	180 x 600	180 x 600
上端筋	2-D13	3-D13
下端筋	2-D13	3-D13
スターラップ	□-D10-@150	□-D10-@150
腹 筋	D10-@150	D10-@150

壁 リ ス ト

A1 S=1:20  
A3 S=1:40

(特記事項)

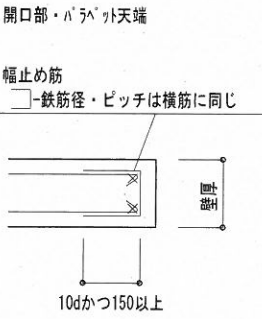
- 1) 外部打放し部は厚20増しコンクリート打ちとする
- 2) 開口補強筋の縦筋は曲げ補強筋を示す
- 3) ダブル配筋の場合幅止め筋はD10@1,000以下とする
- 4) 開口補強の縦筋は壁と壁がクロスする部分は4-D13とする。(T部,L部)  
開口補強の縦筋は壁の端部は2-D13とする。
- 5) 垂れ壁・腰壁部分には必ず壁配筋を行うこと。

符 号		W18 (ハﾟラﾟット)
断 面		
壁 厚		180
配筋タイプ		ダブル
縦 筋		D10-@150
横 筋		D10-@150
開口補強	縦 筋	2-D13
	横 筋	2-D13
	斜め筋	2-D13

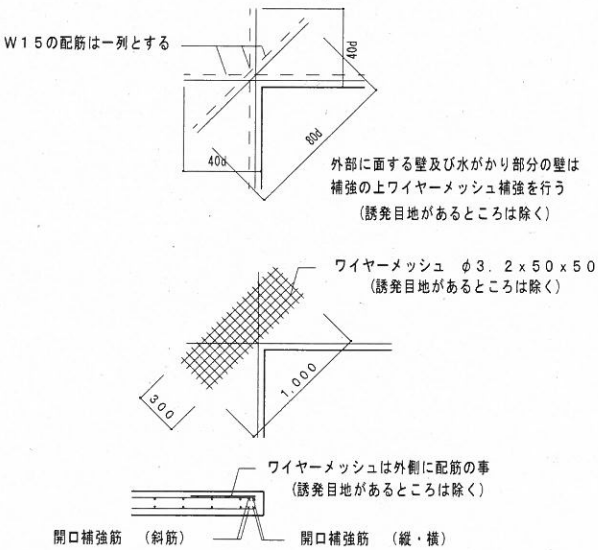
開口部・ハﾟラﾟット天端

幅止め筋  
□-鉄筋径・ピッチは横筋に同じ

10dかつ150以上



開口補強要領

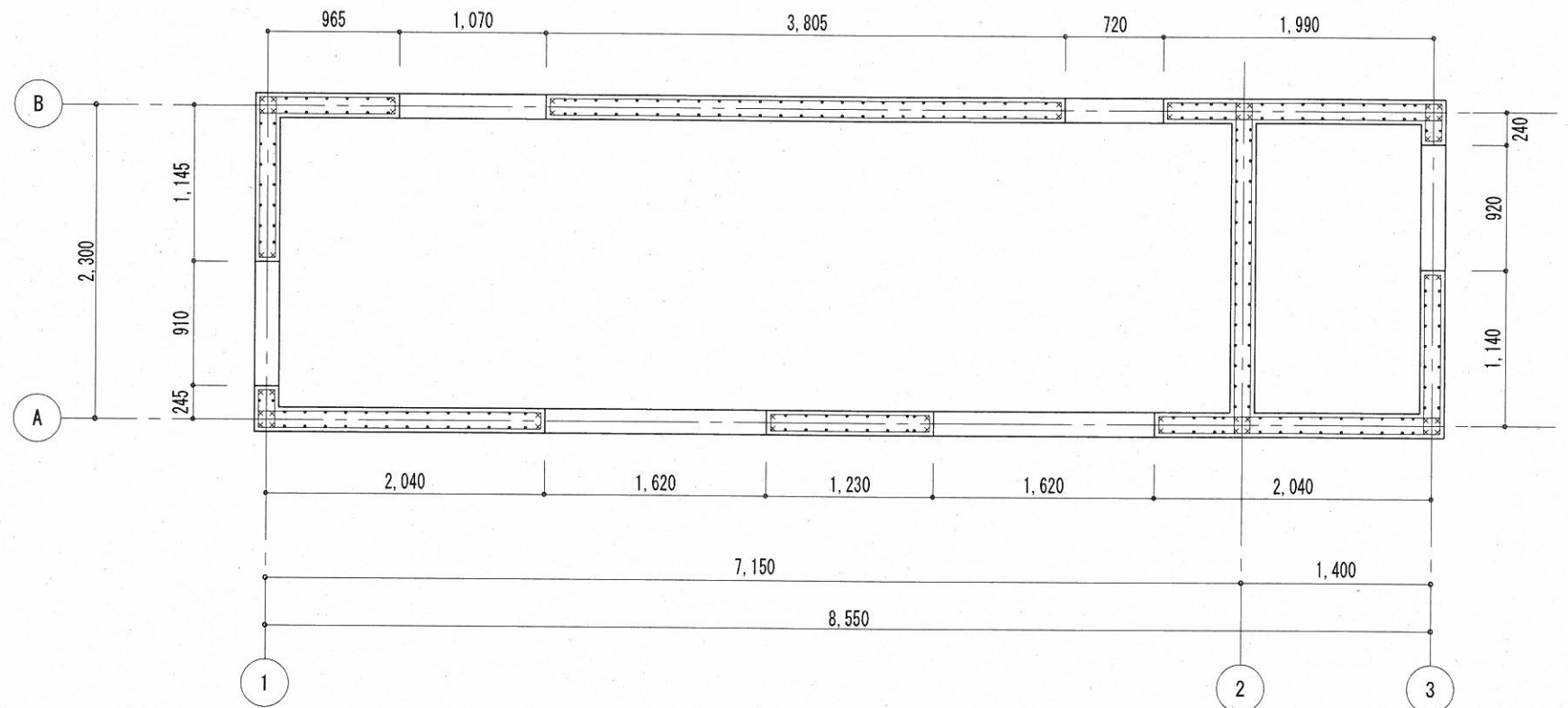


# 平面配筋詳細図

A1 S=1:25  
A3 S=1:50

(特記事項)

- 1) 壁はW18とし、縦横共にD10@150以下とする。
- 2) 幅止め筋はD10@900以下とする。
- 3) 端部補強筋より75を縦筋の始まりとする。
- 4) 特記なき限り、端部補強筋は2-D13とする。
- 5) 特記なき限り、L型・T型・コーナー部は4-D13とする。

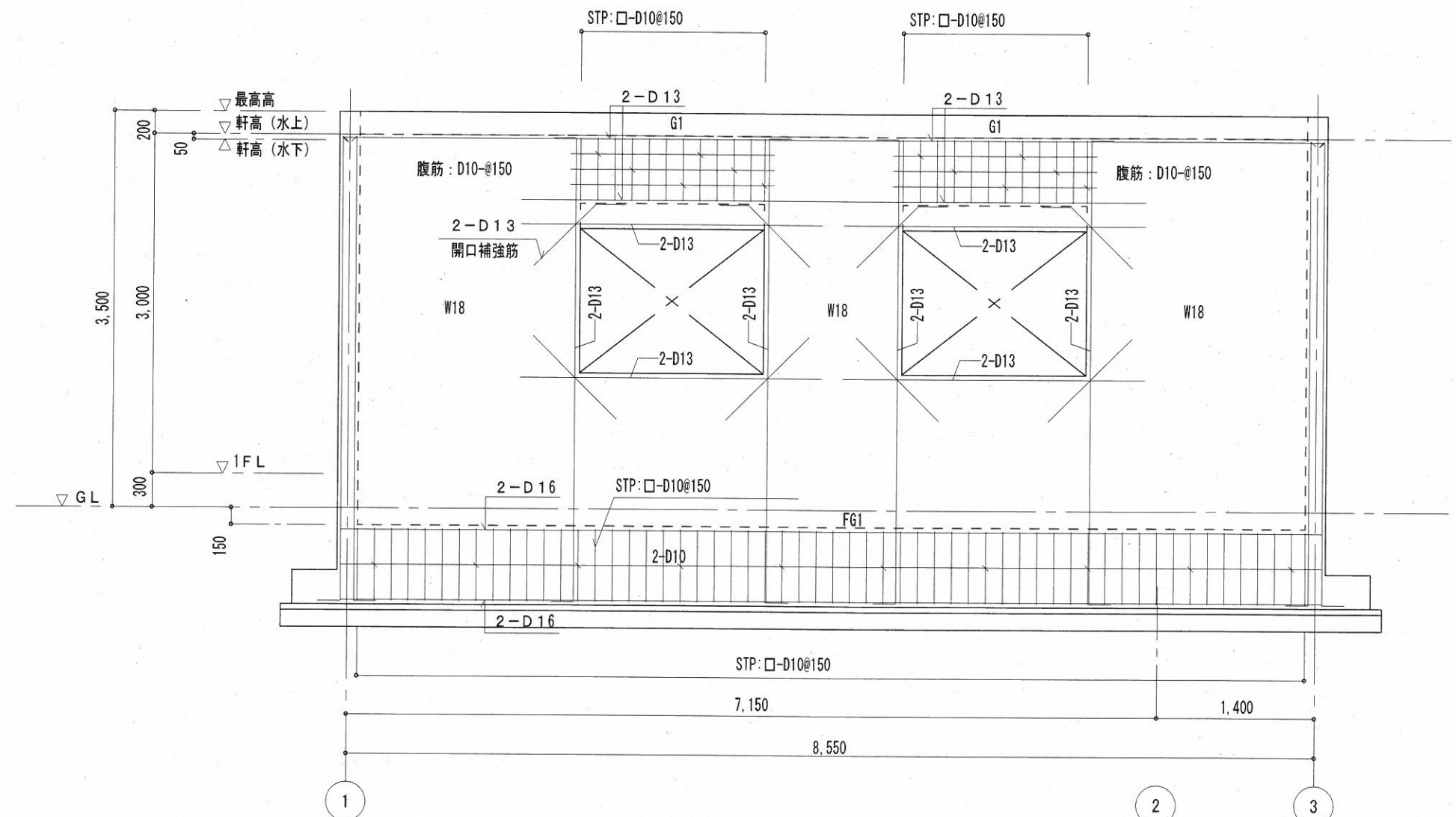


# A通り架構配筋詳細図

A1 S=1:25  
A3 S=1:50

(特記事項)

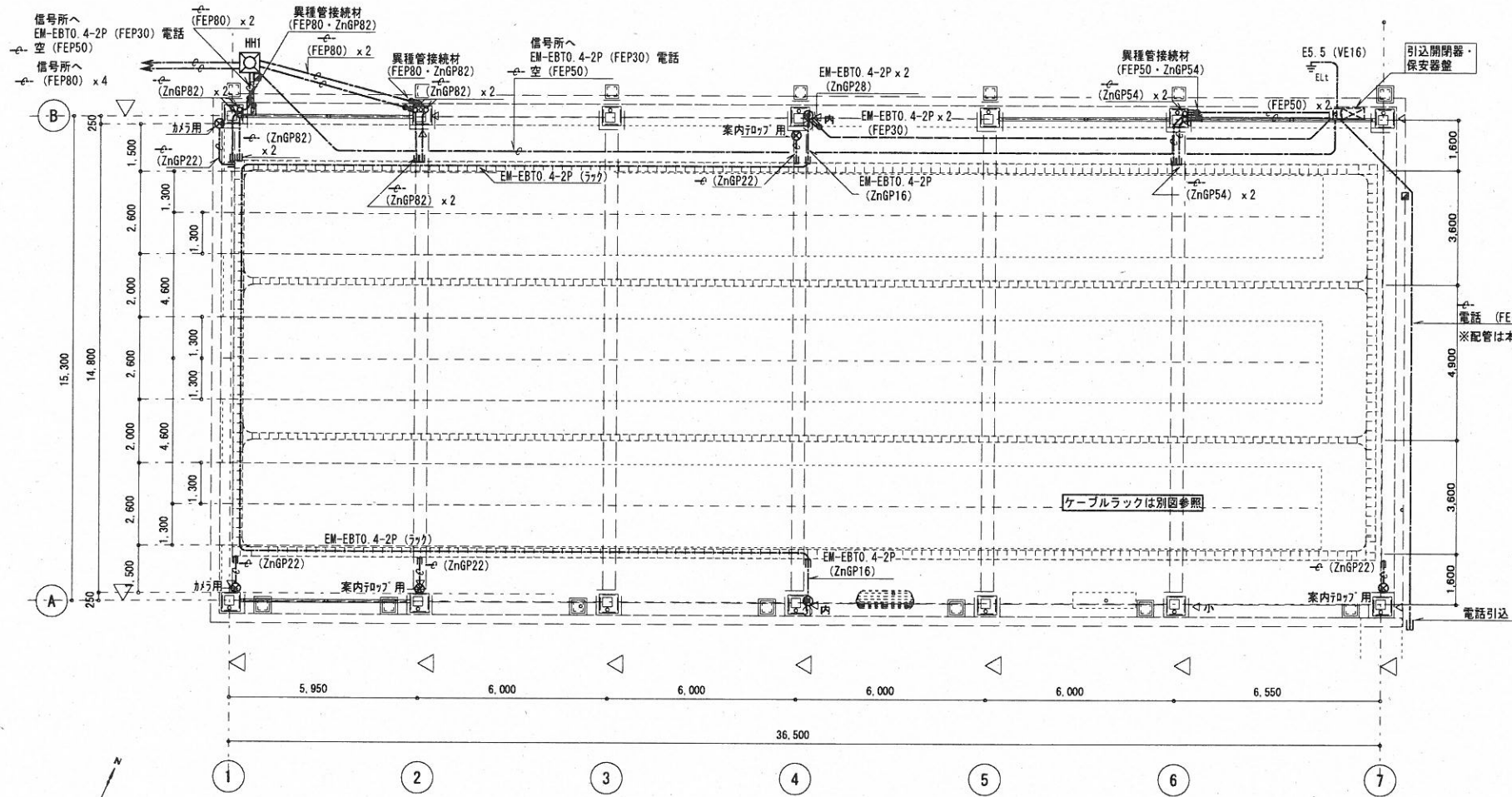
- 1) 特記なき限り、壁はW18とする。
- 2) 梁二段筋のあきは1.5d (d:鉄筋径)とする。
- 3) 幅止め筋はD10@900以下とする。
- 4) 各階出隅部及び最上階柱頭はフックを設ける。
- 5) 開口部斜メ補強筋は2-D13 L=80d各階共通とする。
- 6) 大梁主筋の定着長さは40d以上とする。
- 7) 特記なき限り、地中梁はFG1とし、壁下も設けること。



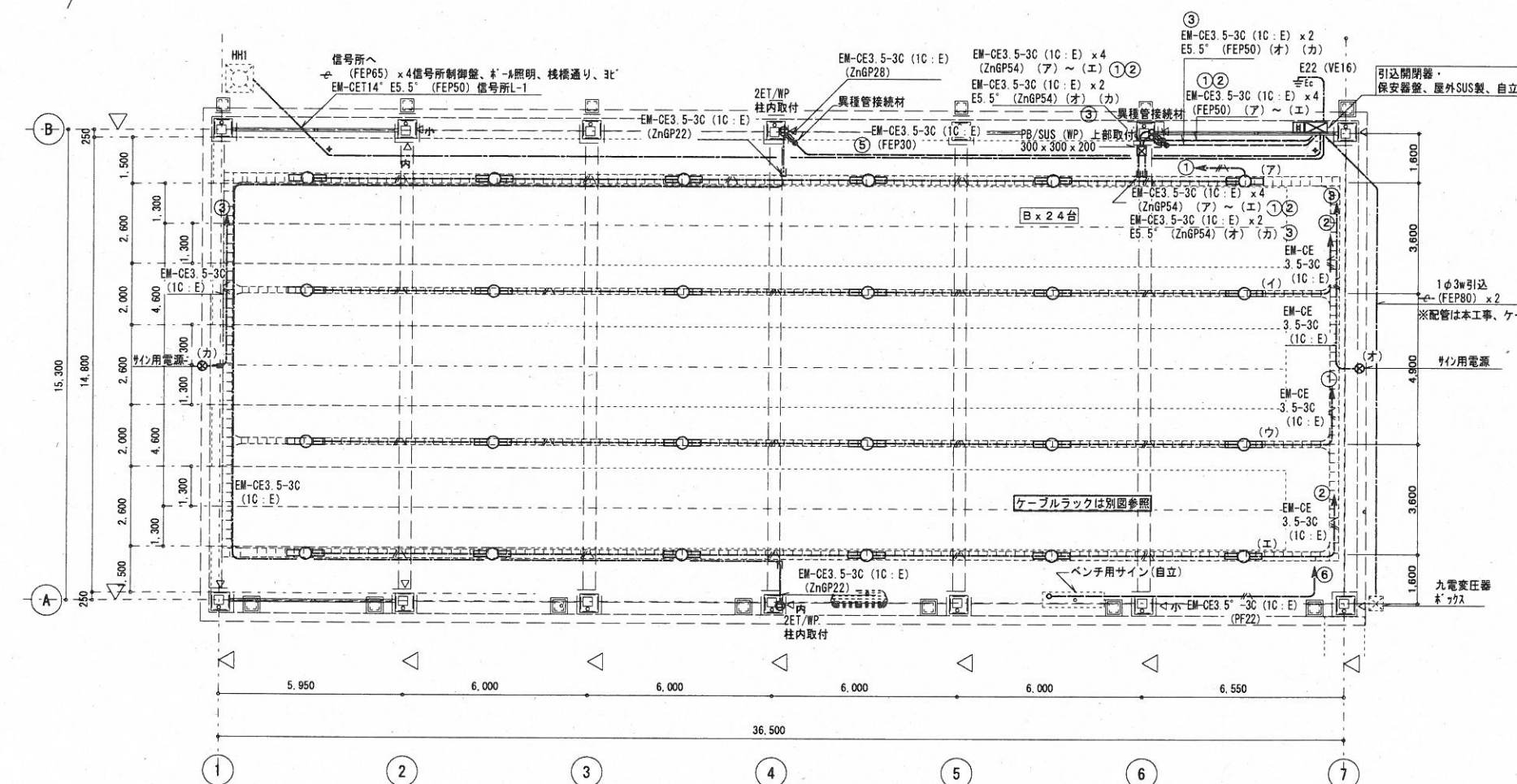
埋め戻し転厚要領	TSD-F01	軽微な底 配筋図	増し打ち部配筋要領	
<div data-bbox="290 191 676 506"></div> <div data-bbox="365 520 774 657"><p>註1) 埋め戻しはシラス又は、良質土を使用の事 転厚については各層2回以上の水締め転厚とする。</p><p>註2) 基礎フーチング下の埋め戻し(※2部分)がある場合については 地盤改良工事(高炉セメント混入等)に準ずる。 設計地耐力以上確保すること</p><p>※1印寸法は、基礎リスト参照</p></div>		<div data-bbox="863 289 1451 590"></div>	<div data-bbox="1644 205 1893 611"></div> <div data-bbox="1688 642 1929 695"><p>注) 増し打ち部の鉄筋スパーサーは 増し打ちを考慮したものを使用する事</p></div>	
土間コンクリート配筋図				
<div data-bbox="231 968 819 1104"><p>D10-@200</p><p>150</p><p>敷き砂・ポリフィルムがある場合 厚さは矩計図参照 厚さは矩計図参照</p></div>		<div data-bbox="923 898 1433 1209"></div>		



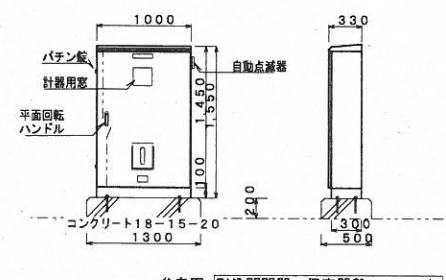
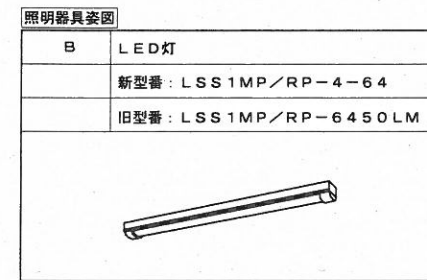
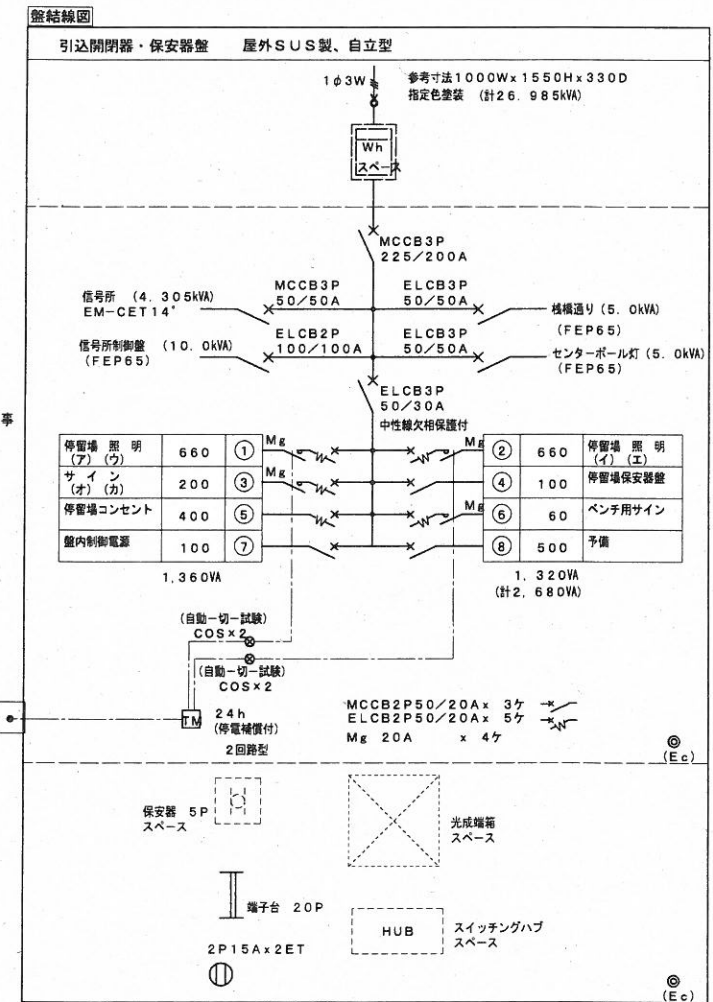




停留場平面図 (弱電)  
A1 S=1:100 A3 S=1:200

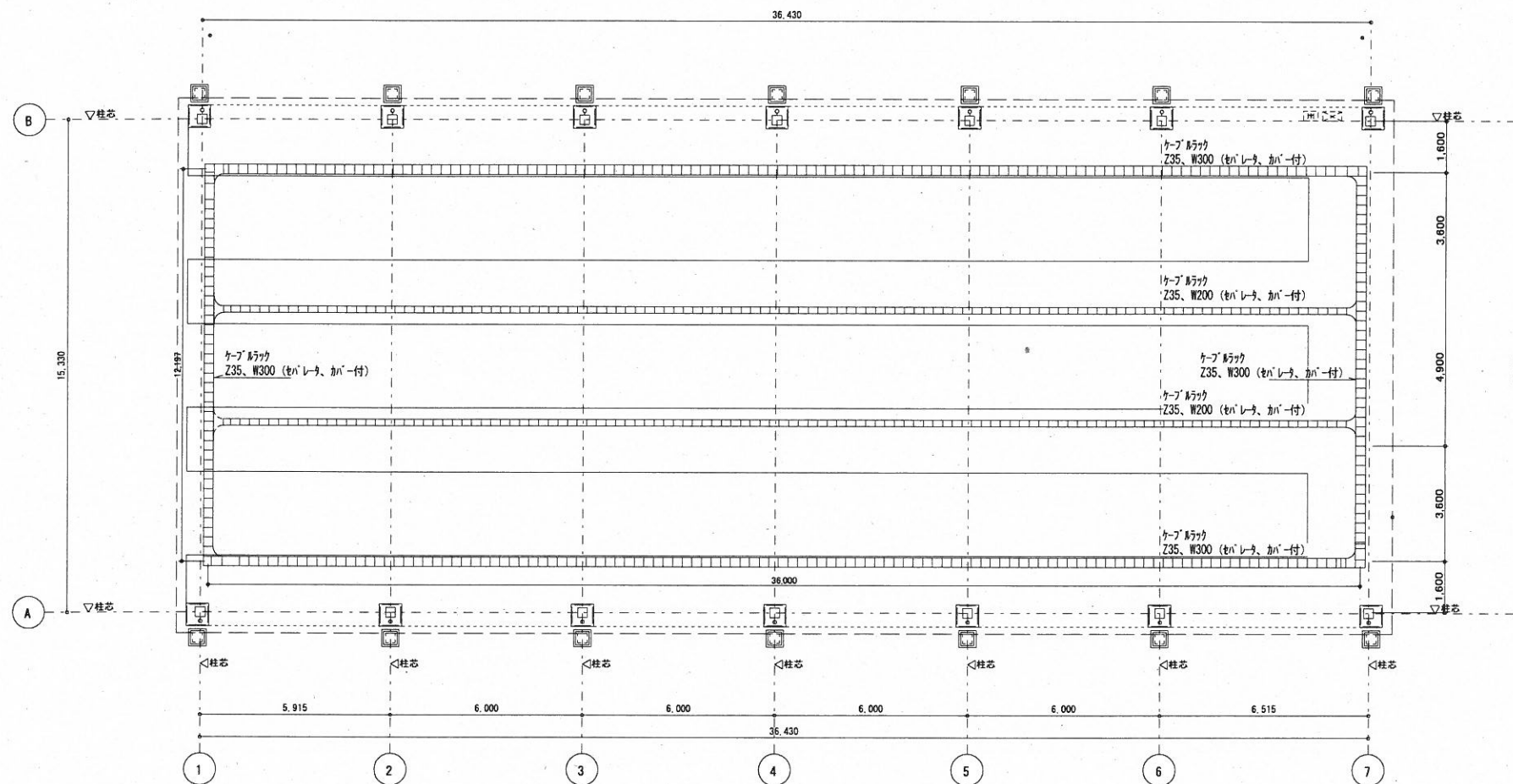


停留場平面図 (電灯)  
A1 S=1:100 A3 S=1:200

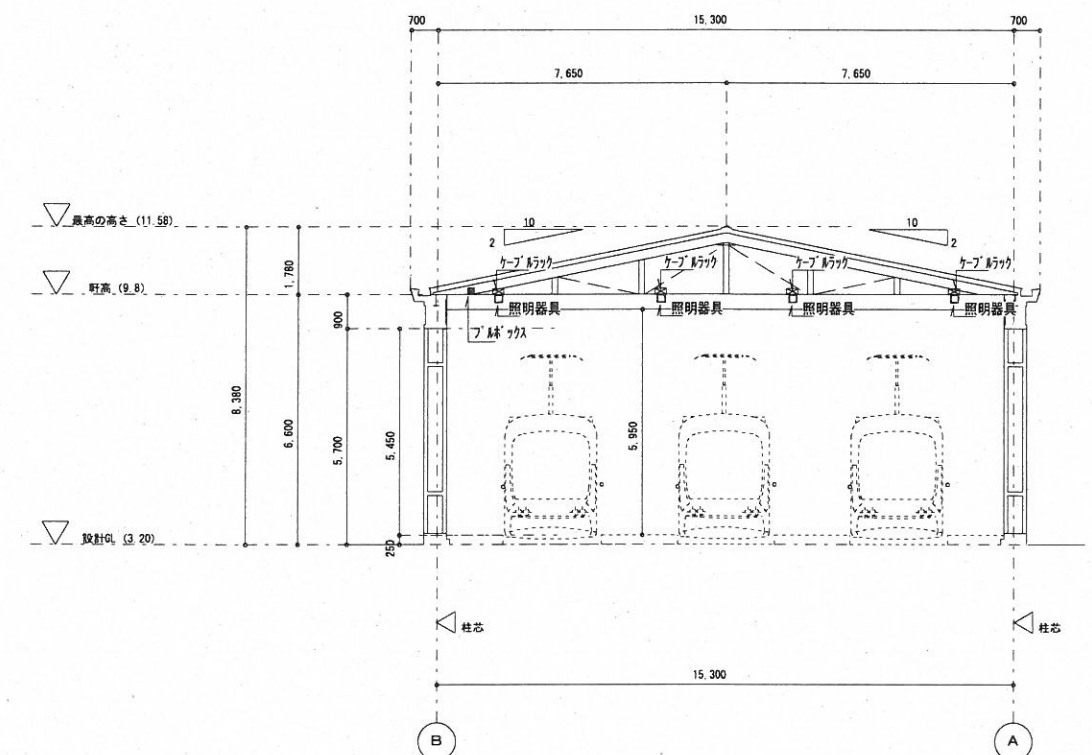


図記号	名称	仕様
(配管記号)	ラック配線	寸法は平面図参照
床いんべい配線	床いんべい配線	種別は図記参照 (接地極埋設機共)
地中配線	地中配線	種別は図記参照 (接地極埋設機共)
プルボックス	プルボックス	コンクリート製
接地極	接地極	キャップ
埋設機柱	埋設機柱	キャップ
埋設機	埋設機	キャップ
地中埋設機	地中埋設機	キャップ
異種管接続材	異種管接続材	キャップ
ハンドホル	ハンドホル	キャップ
ケーブルラック	ケーブルラック	ZAM300・200 (セパレータ、カバー付)
LED 灯	LED 灯	直付、図記参照
接地防水コンセント	接地防水コンセント	防水形 2P15A x 2 接地極、接地端子付
位置ボックス (0B404)	位置ボックス (0B404)	防雨入線プレート
引込開閉器・保安器盤	引込開閉器・保安器盤	屋外 SUS 製、自立型
電話用アウトレット	電話用アウトレット	モジュラージャック (6 極 4 芯) SUS プレート
特記なき配線は下記に依る。		
EM-EBT0. 4-2P	(FEP) (ZnGP) (ラック)	
EM-CE3. 5-3C (1C:E)	(FEP) (ZnGP) (ラック)	
空配管 (FEP)		



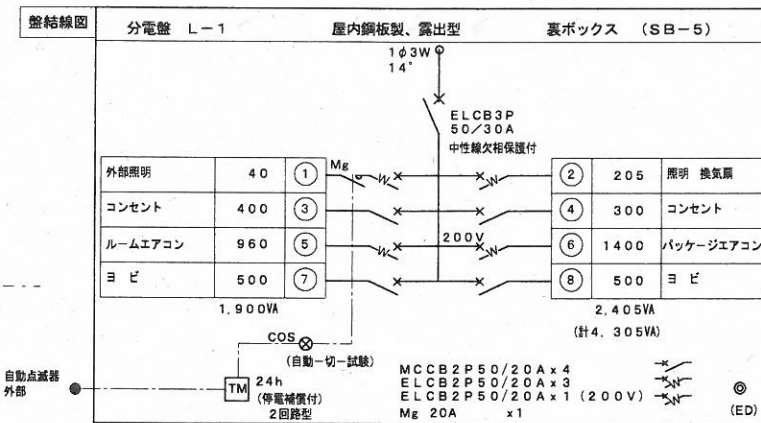
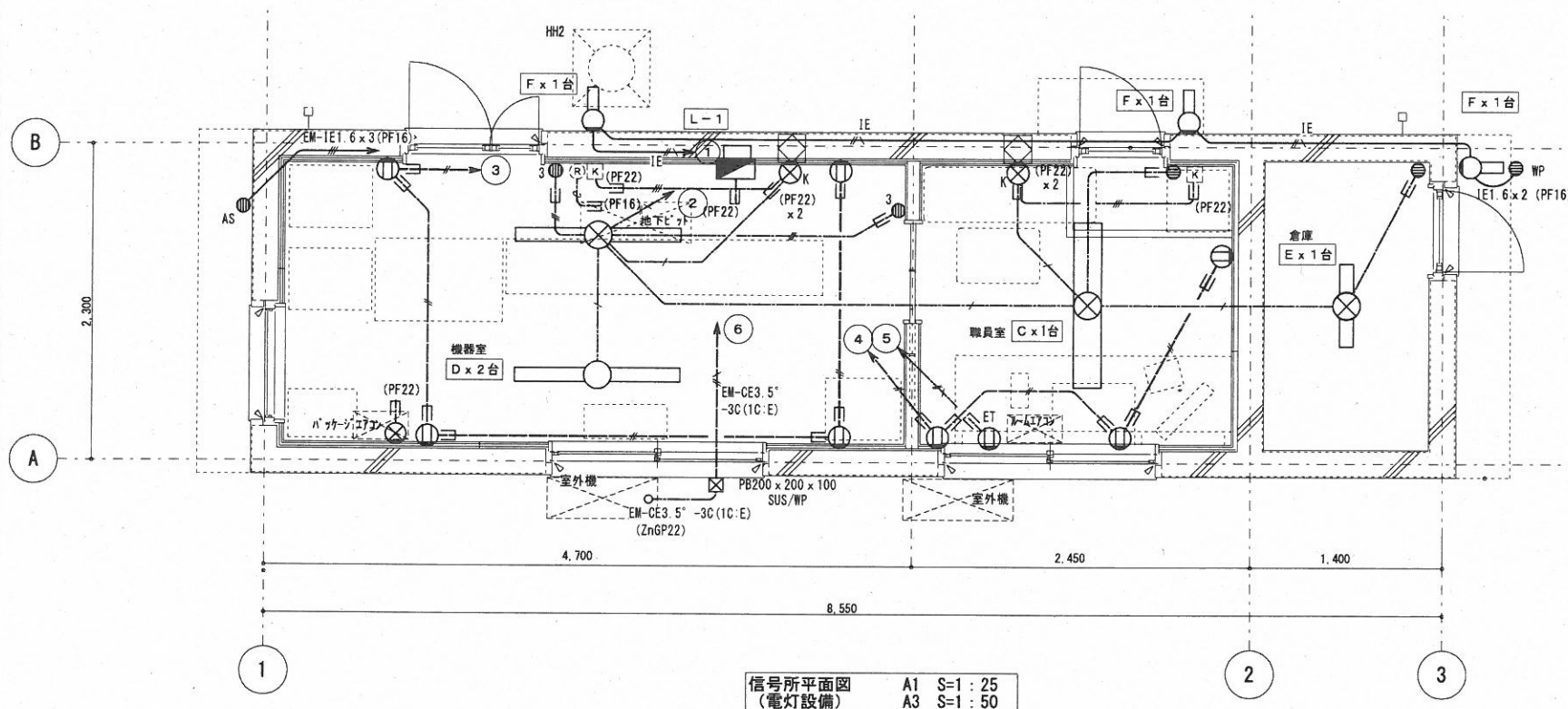
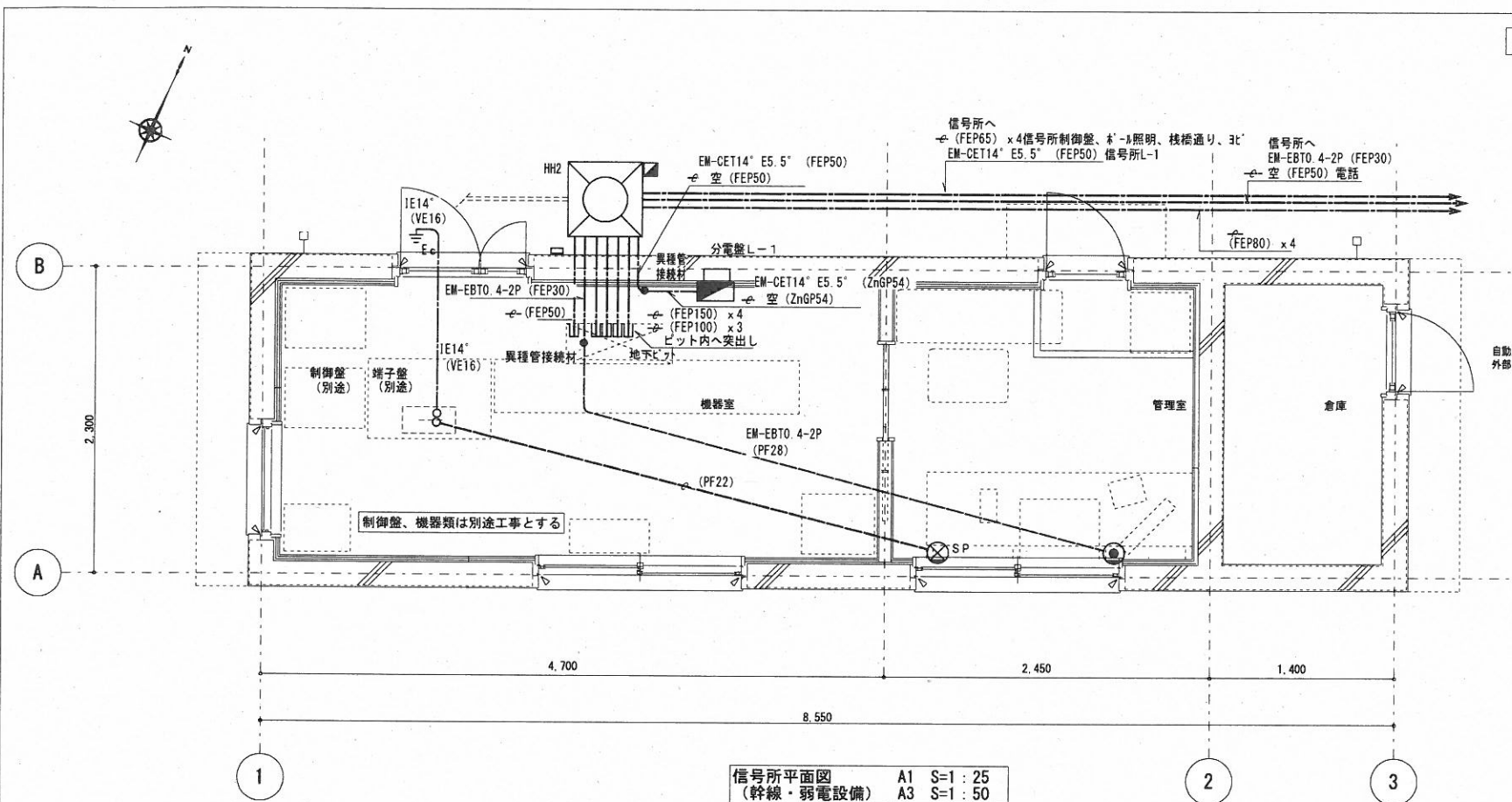


停留場平面図（ケーブルラック） A1 S=1:100  
A3 S=1:200







断面図 A1 S=1:100  
A3 S=1:200





照明器具配置図

C	LED富士型器具	D	LED富士型器具	E	LED富士型器具
	新型番：LSS9-4-65		新型番：LSS9-4-30		新型番：LSS9-2-15
	旧型番：LSS9-6800LM		旧型番：LSS9-3200LM		旧型番：LSS9-1550LM
					
F	LED プラケット				
	新型番：LBF3MP/RP-2-06				
	旧型番：LBF3MP/RP-650LM				
					

凡例表

図記号	名称	仕様
---	天井いんべい配線	
---	壁内いんべい配線	
---	床いんべい配線	
---	地中配線	
---	接地極	種別は傍記参照 (接地極埋設機共)
---	埋設機柱	コンクリート製
---	ハンドホール	
---	異種管接続材	
---	地中埋設機	
---	LED 灯	直付、委図参照
---	LED 灯	直付、OB中張
---	LED 灯	壁付、委図参照
---	埋込コンセント	大角形 2P15A x 2
---	接地付埋込コンセント	大角形 2P15A x 1 接地端子付
---	埋込タンブラスイッチ	大角形 1P15A
---	"	大角形 3W15A
---	埋込タンブラスイッチ	防雨、防湿形 1P15A
---	自動点滅器	埋込形 AC100V3A
---	空調換気扇スイッチ (機械工事)	表ボックス (OB404)、配管、操作線は電気工事
---	空調換気扇	機械設備工事
---	空調用リモコンスイッチ (機械工事)	表ボックス (OB404)、配管は電気工事
---	ブルボックス	SUS製、防水 寸法は傍記参照
---	分電盤	結線図参照 屋内銅板型露出 表ボックス (SB-5)
---	電話用アウトレット	壁付 モジュラージャック (6極4芯)
---	放送用アウトレット	壁付 ステンレスノズルプレート
---	空調換気扇用電源	(OB404) ノズルプレート付
---	空調用	(OB404) ノズルプレート付

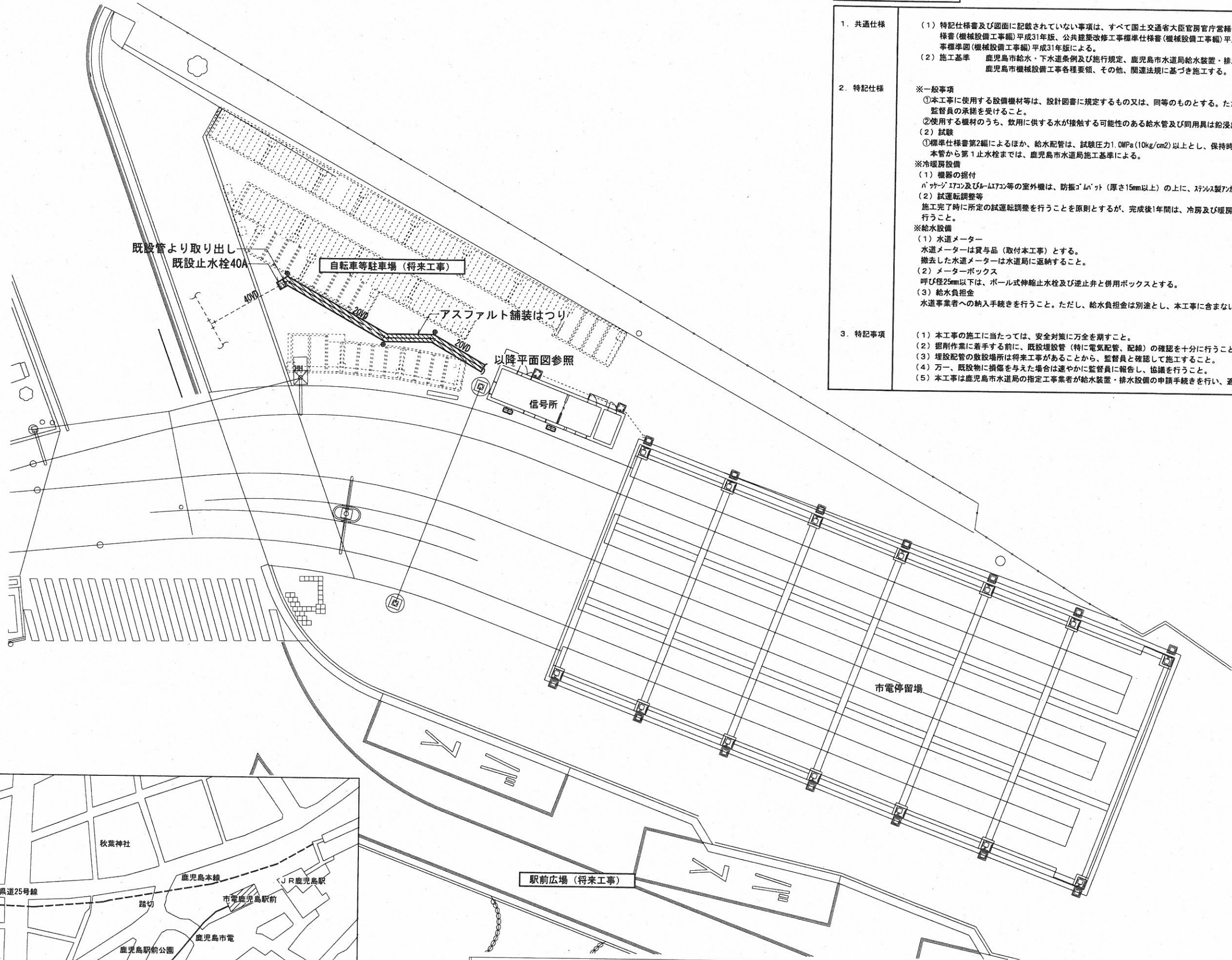
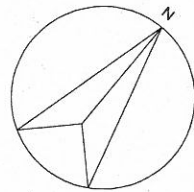
特記なき配線は下記に依る。天井内、OAフロア内はコログン配線とし

室内は電線管で保護する。

---	EM-IE1.6 x 2、E1.6	(PF16)
---	EM-EEF1.6-2C	(PF16)
---	EM-EEF1.6-3C (E:1C)	(PF22)
---	EM-EEF1.6-3C	(PF22)
---	EM-EEF2.0-2C	(PF16)
---	EM-EEF2.0-3C (E:1C)	(PF22)
---	EM-CE3.5-3C (E:1C)	(PF22)
---	EM-EBT0.4-2P	(PF28)

電気設備

(株) トーニチコンサルタント・(株) 東条設計 (株) ワイ・ユウプラン 設計共同企業体		鹿児島市交通局鹿児島駅前停留場上屋ほか 新築工事	
信号所平面図 (電灯・幹線・弱電設備) 盤結線図・照明器具配置図・凡例表		A1: 1/25 A3: 1/50	
管理 建築士	一級建築士 第231912号 折田 孝 印	鹿児島市交通局電車事業課	
		E-04	



### 機械設備工事 特記仕様書

#### 1. 共通仕様

- (1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)平成31年版、公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)平成31年版、及び公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)平成31年版による。
- (2) 施工基準 鹿児島市給水・下水道条例及び施行規定、鹿児島市水道局給水装置・排水設備工事施工基準、鹿児島市機械設備工事各種要領、その他、関連法規に基づき施工する。

#### 2. 特記仕様

- ※一般事項
- ①本工程に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受けること。
  - ②使用する機材のうち、飲用に供する水が接触する可能性のある給水管及び同用具は鉛溶出性能基準適合品であること。
- (2) 試験
- ①標準仕様書第2編によるほか、給水配管は、試験圧力1.0MPa(10kg/cm<sup>2</sup>)以上とし、保持時間は60分以上とする。但し、配水本管から第1止水栓までは、鹿児島市水道局施工基準による。
- ※冷暖房設備
- (1) 機器の据付  
パナソニックエアコン及び日立エアコン等の室外機は、防振ゴムパット(厚さ15mm以上)の上に、スリット型アンカボルトにて固定する。
  - (2) 試運転調整等  
施工完了時に所定の試運転調整を行うことを原則とするが、完成後1年間は、冷房及び暖房時期に入る直前にも各種試運転を行うこと。
- ※給水設備
- (1) 水道メーター  
水道メーターは貸与品(取付本工程)とする。  
撤去した水道メーターは水道局に返納すること。
  - (2) メーターボックス  
呼び径25mm以下は、ボール式伸縮止水栓及び逆止弁と併用ボックスとする。
  - (3) 給水負担金  
水道事業者への納入手続きを行うこと。ただし、給水負担金は別途とし、本工程に含まない。

#### 3. 特記事項

- (1) 本工程の施工に当たっては、安全対策に万全を期すこと。
- (2) 掘削作業に着手する前に、既設埋設管(特に電気配管、配線)の確認を十分に行うこと。
- (3) 埋設配管の敷設場所は将来工事があることから、監督員と確認して施工すること。
- (4) 万一、既設物に損傷を与えた場合は速やかに監督員に報告し、協議を行うこと。
- (5) 本工程は鹿児島市水道局の指定工事業者が給水装置・排水設備の申請手続きを行い、適切に工事を行うこと。

### 付近見取図



### 配置図 (機械設備)

A3:S=1:250

—— 本工程を示す

### 機械設備

(株)トニシ設計・(株)東栄設計・(株)ワイ・ユウプラン 設計企業代表 株式会社トニシ設計 西川 俊一		鹿児島市交通局鹿児島駅前停留場上屋ほか新築工事	
管 理 建 築 士	一級建築士 第231912号 折 田 孝 一	付近見取図、配置図(機械設備) 特記仕様書	A3 1:250 M-01



凡 例 表

記 号	名 称	仕 様	防露・保温・塗装		備考
			屋内露出	屋外露出	
— R —	冷 媒 管	断熱材被覆銅管	Cu	保温化粧ケース	保温化粧ケース
— D —	ドレン管	屋外露出	配管用炭素鋼管	SGP-ZN	—
		土中	硬質塩化ビニル管	VP	—

空調機器表

JIS B 8615により規定されたもの

機 番	名 称	機 器 仕 様	電 源				A P F (以上)	台 数	備 考
			位置	相	電圧:V	容量:KW			
PAC 1	空冷冷房専用パッケージエアコン	壁掛型	内	1	200	1.40	5.3	1	耐重塩害仕様
		定格冷房能力 (kW) : 4.5							
		定格暖房能力 (kW) : —							
		圧縮機出力 (kW) : 1.2							
RAC 1	空冷ヒートポンプルームエアコン	騒音値 68dB以下							
		ワイヤードリモン、他標準付属品共							
		防振ゴム、転倒防止金具 (SUS)							
		壁掛型	内	1	100	0.47	6.7	1	耐重塩害仕様
		定格冷房能力 (kW) : 2.2							
		定格暖房能力 (kW) : 2.5							
		圧縮機出力 (kW) : 0.6							
		騒音値 62dB以下							
		ワイヤードリモン、他標準付属品共							
		防振ゴム、転倒防止金具 (SUS)							

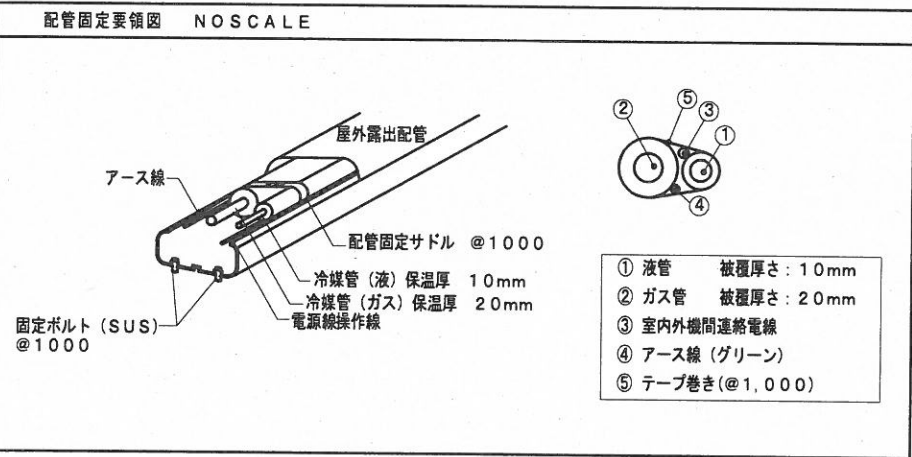
※ルームエアコンはグリーン購入法適合品とすること。  
※記載APF以上の機種を使用すること。  
※室外機塗装は、耐塩害仕様とすること。  
※圧縮機出力、騒音値、電源容量は参考値とする。

換気機器表

全熱交換ユニット：交換効率はJIS B 8628により規定された試験方法によるもの

記号	名 称	仕 様	電源 (φ-V)	消費電力 (kW)	台数	備考
HEU-1	壁付空調換気扇 (1バイタイプ)	形 式 壁掛形 熱交換効率 冷房時63%、暖房時66% 風 量 40m <sup>3</sup> /h	1-100	0.30	2	ステンレス深形専用フード、給排気専用配管、専用スイッチ

各種施工要領図



管種使用区分表

記 号	名 称	管 区 分		備 考
		屋外埋設	水道用硬質内外面塩化ビニル管 SGP-VD	
— — — —	給水管			
●	埋設標示柱	屋外	200φ×300Hコンクリート巻 7.5ミタ'イカストビト'ロニウム仕上げ	土質部
⊕			キャッツアイ	舗装面

特記事項  
1. 地中埋設深さはGLより管頂まで600mm以上とする。  
2. 埋め戻しは管及び被覆樹脂管を傷つけぬよう、掘削土の良質土で埋め戻す。  
3. 埋設管は、埋設表示テープを管上に貼り、管を埋め戻す際に、地表から150～300mmの深さに埋設表示用の標識シートを埋設する。

器具明細表

名 称	品 番 (参考)	合 計	備 考
ホーム水栓 (キ一式)	T200CSNR13/LF-7RG-13	1	
水栓柱	H=1200	1	

施工区分表

	機械	建築	電気
空調機基礎工事	●		
空調機一次側電源工事			●
空調機室内外配線	●		
空調機用リモコン配管・裏ボックス			●
空調機用リモコン配線	●		
空調換気扇リモコン	●		
空調換気扇用リモコン配管・裏ボックス			●
空調換気扇用リモコン配線			●

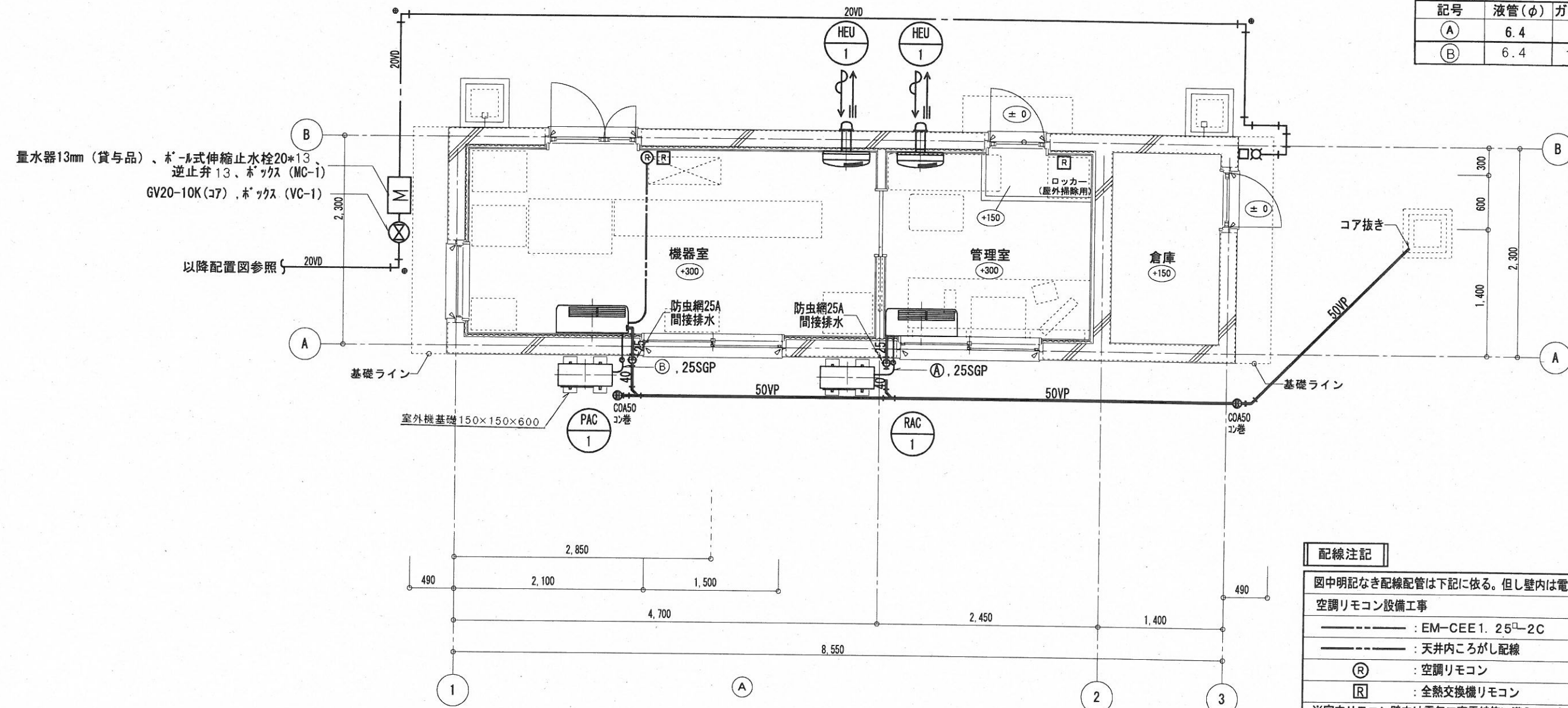
機械設備



24時間換気表

部屋名	居室床面積 m <sup>2</sup>	天井高 m	気積 m <sup>3</sup>	必要換気量 0.3回/h	換気扇風量 m <sup>3</sup> /h	換気扇番号	換気方式	判定
管理室	4.75	2.50	11.875	3.57	40	HEU-1	1種換気	○.K

冷媒管サイズ表		
記号	液管(φ)	ガス管(φ)
(A)	6.4	9.5
(B)	6.4	12.7



信号所平面図 (機械設備) A3 1: 50

—— 本工事を示す

配線注記

図中明記なき配線配管は下記に依る。但し壁内は電気工事配管に導入のこと。	
空調リモコン設備工事	
——	: EM-CEE1. 25□-2C
——	: 天井内ころがし配線
(R)	: 空調リモコン
(R)	: 全熱交換機リモコン
※室内リモコン壁内は電気工事電線管に導入のこと。	
※本配線図は参考とする。	
室内外渡り+電源線: EM-CEE2. 0□-3C	
アース線	: EM-IE1. 6□
※室内機~室外機間の制御線渡りは冷媒管共巻きとする。	

機械設備

(株)トニコン・(株)東急設計・(株)ワイ・ユウプラン 設計企業代表 株式会社トニコン・西川 俊一		鹿児島市交通局鹿児島駅前停留場上屋ほか新築工事	
管 理 建築士	一級建築士 第231912号 折 田 孝	信号所平面図 (機械設備) 鹿児島市交通局電車事業課	A3 1: 50 M-03